



陳言コラム-23

中国雑談

豚に感謝する中国経済

ネギの価格が 500 グラムで 8 元になった。換算すると 1 トン 1 万 6000 円でガソリン価格の 8 倍だ。日本の方は匂いに敏感だが、実は、今の中国では、口を開けばネギのにおいを漂わせている人は、自らの裕福さを誇示していると思ったほうが正解だろう。

新聞民工¹の場合、日系企業を取材する前にネギをちぎって口に入れ、やっと自分も立派だと思わせる。「刻みネギを浮かべたコーヒー」という新商品を出したら、ヒットするかもしれない。それを上島コーヒーに提案するか、それとも特許を申請するか、考案した人は今たいへん迷っているようだ。

というのは、今、中国の野菜と豚肉の価格が暴騰している。中国のインフレの歴史において、食品、とりわけ野菜と豚肉の値上がりが、これまでずっと最も主要な要素となってきた。例えば、国家統計局が発表した 3 月分の価格データによると、消費者物価指数(CPI)が前年比で 2.3% 上昇し、工業生産者物価指数(PPI)の方は前年比で 4.3% 下落した。CPI の上昇を招いた要因には野菜の値上がりと豚肉価格の暴騰が含まれている。

国家統計局の解説によると、昨年 3 月に比べて市場への供給が相対的に不足しているため、生鮮野菜は前年比で非常に値上がりしている。その値上げ幅は 35.8% で、CPI の 0.92% 上昇につながっている。かつて豚肉の価格が長期にわたって低迷していた時期に、養豚場主たちの意気込みがくじかれたことで豚の飼育数が下落したため、生産能力は近年低水準で推移しており、それに伴って市場への供給が緊迫した結果、豚肉の価格は前年比で 28.4% も上昇し、CPI の 0.64% 上昇につながっている。ここで指摘したいのは、豚肉価格の 28.4% という上昇率は、今年以降の上海における不動産価格の平均値上げ幅よりも高いという点だ。

豚肉の価格に関しては、現在の豚肉価格の上昇は過去の価格の是正に過ぎない。中国の物

¹ 新聞民工: 中国では、記者の待遇は低く、農民工をまねて新聞民工と呼ばれている。



価格は常に「ピッグ・サイクル」の影響を受けている。今年の価格ではいわゆる暴騰が見られたとしても、豚肉の価格が歴史的な高値に到達したばかりであり、実に養豚場主がそれほど儲かっていることもなく、豚の飼育数もこれまでの長年にわたる豚肉価格の低迷により、やはり不足している。中国の養豚業のローエンドで原始的なところ、また主に小口の個人経営主を中心としているスタイルはいまだに変わっていない。これは、豚肉の価格が一定の水準まで値上がりすると、その後必ず下落することを意味している。

仮に野菜と豚肉の価格を別に見てみると、中国の実質のインフレ率はどれくらいになるのか？ 実のところ 1.5%程度に過ぎないと研究者は言う。緩いとされる 2%に満たないものである。2%のインフレ率は、中国の隣にある国も求めているが、達成していない。中国からはとてもその国が笑えない。

中国経済における今年最大の問題は、日本と同じくデフレであり、インフレではない。このことは、豚肉と野菜の価格にかかる深い霧を払えば必ず明白になる。豚肉の価格に翻弄されるのではなく、実質のインフレ率で通貨政策の方向性を予測判断しなければならない。

とくに中国経済を見る場合、豚が偉大な貢献を果たしていることに注目しなければならない。中国では豚は実に物わかりが良すぎる。インフレの時は豚肉価格の下落がインフレを抑え、デフレの時には豚肉価格の高騰が中国経済をデフレの罠から遠ざけてくれる。中国では豚が社会主義価値観を最もよく理解しているのだ。

豚に感謝しよう。